

2008 年度

科目名		対象学科・学年 教育教職3回生	担当者
比較教育学			開沼 太郎
授業テーマ 比較教育学の基礎概念や課題、研究方法を理解し、わが国の教育現象との比較を通して諸課題の把握を試みる。			
授業の概要と目標 1、「比較行政学」とは何か、その目的や対象、意義について、具体的な比較プロセスを通じて理解を深める。 2、教育学としての比較教育学研究の技法を概観し、科学的な視座の獲得を目指す。 3、わが国の教育制度や教育政策、教育改革の動向を、国際比較研究を通じて検討し、関係性を理解する。			
評価方法 平常点（出席時の小テスト・小レポート）：30%程度、課題演習（発表や提出）：70%程度 を目安に総合評価を実施する。 状況に応じて試験を実施する場合もある。			
テキスト 講義時に指示する。 必要に応じて配付資料やオンライン資料などを利用する。		著者	出版社
参考書 講義時に適宜指示する。		著者	出版社
授業スケジュール・内容			
題目		内容	
(01) ガイダンス		本講義の概要について	
(02) 「比較教育学」とは		比較教育学の概念、研究の目的、課題 など	
(03) 比較教育学の研究手法 ①		主要な研究手法の紹介と解釈について	
(04) 比較教育学の研究手法 ②		具体的な研究事例の検討と課題の把握	
(05) 比較教育学研究の史的展開		比較教育研究の流れと現代の特徴について	
(06) 教育制度の国際比較		(諸外国の教育制度や教育方法、カリキュラムについて概観し、	
(07) 学校教育の国際比較		国際比較を通じて、わが国の教育の性格や特徴、	
(08) 教育行政の国際比較		直面する現代的課題の把握を試みる。)	
(09) 教育改革の国際比較		今日のわが国の教育改革と国際的潮流との関係性について	
(10) 生涯学習体系の国際的動向		「生涯学習」概念の成立と展開における国際的動向について	
(11) 社会の変化への対応と教育の国際比較 ①		「少子高齢化社会」をめぐる国際間格差と教育的課題	
(12) 社会の変化への対応と教育の国際比較 ②		「国際化社会」と国際理解、国際協力、教育や文化の交流について	
(13) 社会の変化への対応と教育の国際比較 ③		「情報化社会」と ICT 教育の国際的動向の比較	
(14) 比較教育学研究の実際		現在の研究動向のレビュー、意見交換 など	
(15) まとめ		本講義のまとめ	
※ 授業では、コンピュータや携帯電話（情報端末）など、情報通信機器を積極的に活用する予定である。受講者には専門的な技術や知識は必要ないが、主体的かつ積極的な活用姿勢を望みたい。			